大学評価学会第 12 回大会
開催日：2015 年 2 月 28 日（土）～3 月 1 日（日）
会　場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

国立大学法人化や私立学校法改定から 10 年余を経過して、大学の建学の精神や独自の理念に基づく個性ある大学作りが言われる一方で、グローバル化、イノベーション創出の掛け声の下に、一元的な指標で序列化し、輪切りにして機能分化する大学政策・評価が強まる中、本学会が 2004 年の設立宣言で掲げた「大学評価京都宣言＝もう一つの『大学評価』宣言」が謳っている経済的価値だけではない大学の社会的使命に鑑みての多様な評価とそれによる国民のための高等教育機関の発展に期待が高まる中、**大学評価、政策、経営における「Diversity and Inclusion」**をテーマに掲げて、神戸学院大学で第 12 回大会（実行委員長：水谷勇（神戸学院大学人文学部））が開催された。初日に自由研究発表 2 会場、女性差別撤廃条約批准 30 周年を記念したジェンダー視点からのアプローチの基調報告とシンポジウム、翌日の課題研究分科会 4 会場に、90 名の参加者で活発な議論が展開された。

1 日目午前の自由研究発表では、「授業研究・実践研究」（A 会場）に関わって 4 件、「大学経営・大学運営」（B 会場）に関わって 3 件の発表がなされた。前者では,アクティブ・ラーニングの導入などの授業実践が主ではあったが、学生の学びと成長は授業で完結するものではなく、課外活動（部活・サークル）、行事、ボランティア、バイトなど多様で、それらと授業をどう関係づけて育てていくのか、学生との多様なコミュニケーションの取り方の工夫、学生（の親）の経済的負担があまりにも大きく障害になっていることなどが議論され、後者では、財政面があまりに前面に出る中で大学の公共性が後退していること、このことと近年の大学の自治の衰退との関連、さらには、大学の地域貢献について議論された。

1 日目午後の総会では岡田豊基神戸学院大学学長から熱い歓迎の挨拶をうけ、理事の改選、次年度開催校（札幌学院大学（または北海道大学）5 月開催）などを決めた。

シンポジウムでは、「大学の男女共同参画の課題と展望」という朴木佳緒留氏（神戸大学）よりデータを駆使した緻密な基調報告を、廣森尚子氏（青森公立保健大学）「公立大学の男女共同参画の現状」、湯川やよい氏（日本学術振興会特別研究員）「知の共同体を再考する：大学における多様性とハラスメント」の報告を受け、一般参加者を含め、意見交換した。

2 日目午前の**「発達保障」**（テーマ：ノンエリート青年の大学教育と発達保障）分科会では、発達心理学からの青年期教育への問題提起の報告と短期大学での学校と職業との狭間にある学生を励ます実践報告を受け、**「大学経営」**（テーマ：大学自治のあり方としての法人経営（ガバナンス、マネジメント）とは）分科会では、前学長の実践報告と経営学者の問題提起を受け、それぞれ活発に議論されて、問題点や対応策を深めることができた。

午後の**「教職協働」**（テーマ：学生支援・学修支援としての教職協働）分科会では、FD を中心とした授業改善での職員の果たす役割、教職協働のあり方が 3 本の報告をもとに深められた。**「発達障がい」**（テーマ：発達障がい青年の学び保障と移行支援）分科会では、大学や NPO などによる学校から社会・仕事への移行支援の動向研究・実践報告（うち神戸 2）計 3 本を受けて、障害者自立支援法を生かしての支援、取り組みのあり方・問題点を深めた。

最後の総括討論では、各分科会座長による分科会での議論の概要報告を受け、今大会での議論を参加者で共有し、議論し深めることができた。大学が競争の中で自己を見失って変質していくのではなく、学問の府として、国民の信託に応え、学生も学問探究にともに従事することで成長するという原点にかえることの重要性が再確認された。

なお、前年度の大会報告などが集録された年報『現代社会と大学評価』第 9・10 合併号（テーマ：大学経営／若者のキャリア形成、晃洋書房、2200 円＋税）は書店等で購入できる。また、大会予稿集は希望する者に実費で頒布可能である（詳細は学会 HP http://www.unive.jp/に記載された学会事務局まで）。（文責：水谷勇）